

教授 **加藤 陽子** (戸籍名は野島陽子) KATO, Yoko

<http://www4.ocn.ne.jp/~aninoji/>

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業 (文学士)
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (国史学)
- 1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学 (国史学)
- 1989年4月 山梨大学教育学部専任講師 (日本史学)
- 1991年4月 山梨大学教育学部助教授 (日本史学)
- 1992年12月 文部省在外研究員として、スタンフォード大学東アジアコレクション、ハーバード大学ライシャワーセンター研究員
- 1994年4月 東京大学文学部助教授 (日本史学)
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (日本史学)
- 1997年2月 博士 (文学) 取得
- 2009年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (日本史学)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

1930年代の日本の政治と外交

c 主要業績

(1) 著書

『それでも日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社、2009年7月) 414p

『NHK さかのぼり日本史 ②昭和 とめられなかった戦争』(NHK出版、2011年7月) 137p

『昭和天皇と戦争の世紀』(講談社、2011年8月) 422p

(2) 論文

「一九三〇年代の戦争は何をめぐる闘争だったのか」、岩波書店編集部『日本の近現代史をどう見るか』(岩波書店、2010年2月) pp.107-131

「戦死と遺族」、『死生学研究』第13号(2010年3月) pp.32-44

「基調講演 戦争研究と戦争展示」、『歴博フォーラム 戦争と平和』(東京堂出版、2010年3月) pp.22-67

「なぜ、日中戦争をとめられなかったのか」、NHK取材班編『日本人はなぜ戦争へと向かったのか』上(NHK出版、2011年3月) pp.235-250

(3) 書評、新刊紹介など

「書評、小林英夫・林道生著『日中戦争史論 汪精衛政権と中国占領地』、『日本歴史』740号(2010年1月)

「歴史の複雑さに斬りこむ人」、『出版ダイジェスト みすず書房の本』2186号(2010年3月10日)

ジョン・ダワー『昭和』(みすず書房、2010年)の紹介

「回顧と展望」「近代 総論」「近代 外交二」(2009年度) 2010年5月

(4) 史料編纂、史料紹介など

「冷戦終結後に求められる歴史とは」、『学士会会報』882号(2010年3月)

「史料紹介 森本州平日記(四)」、『東京大学日本史学研究室紀要』15号、2011.3、pp.327-352

(5) 学会発表・講演会・司会など

シンポジウム発表「太平洋戦争を「かたち」から考える」(メトロポリタン史学会第6回大会、シンポジウム「20世紀の戦争——その世界史的位相」、2010年4月17日、首都大学東京)

ネクスト・ドキュメント・フォーラムN-1「歴史と文書 戦争と革命の20世紀を中心に」(2010年7月14日、東京ビックサイト)

史学会第一〇八回大会公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」コメンテーター(2010年11月6日、東京大学)

「明治期における日本陸軍におけるドイツ観」(日独国際シンポジウム「日独関係における相互認識」2010年12月4日、日独文化会館)

3. 主な社会活動

(1) 学会

史学会評議員、日本歴史学会評議員

(2) 行政

内閣府 公文書管理委員会委員

公文書管理委員会 不服審査分科会委員